

茜草句会 作品紹介

令和二年九月

邪魔をする猫を宥めて障子貼る

高橋千賀子

新涼やもの干す肘を高く上げ

立脇みさを

野分立つ竹藪の音波に似て

菅野 京子

混浴におぼろおぼろの秋灯

岡田 晃

帰る家有るが幸せ秋ざくら

井上 清子

マンション群窓それぞれの秋灯し

森 道子

船と船舳うは絆波止野分

中島 益実

燈火親し夫と歌ひしわらべ唄

中野麻利子

踵より秋の気配の忍び寄る

中島美ね子

朝晩は小さい秋がチラホラと

丸本 久雄

明けぬれば空の群青野分あと

古田 寛子

pegasus座銀河の旅の始発駅

板垣 直美

秋の灯を寄て浸りし孤独かな

木挽 康春

